

## 行政評価事務事業一覧

### 【まちづくりの目標7\_行財政運営】

#### 施策 7-2\_開かれた市政の推進

基本計画		事業番号	細事業名称
7-02-01	コミュニケーション型広報の推進	02133_01	広報推進事業
7-02-01	コミュニケーション型広報の推進	02473_01	走る広告塔事業
7-02-01	コミュニケーション型広報の推進	02642_01	全国「にいほま倶楽部」推進事業
7-02-02	情報提供メディアの複合的な利活用	01010_01	議会放映事業
7-02-02	情報提供メディアの複合的な利活用	01012_01	議会広報事業

### 令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	02133_01		
事業名(行目名称)		広報推進費	細事業名	広報推進事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	コミュニケーション型広報の推進	担当課	シティプロモーション推進課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民ほか		数値	121,211人		
	手段(どうやって)	広報紙、CATV、インターネットといった多様な媒体を活用し、市の主要プロジェクト、各施設の紹介、各種イベントなど市政に関する情報発信を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	広報紙、CATV、インターネットといった多様な媒体を活用し、市の主要プロジェクト、各施設の紹介、各種イベントなど市民に役立つ市政情報を、分かりやすく情報提供する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		18,019	14,453	14,453		<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員手当等 484千円</li> <li>○報償費 4千円</li> <li>○旅費 63千円</li> <li>○委託料 12,472千円</li> <li>○使用料及び賃借料 1,398千円</li> <li>○負担金補助及び交付金 32千円</li> </ul>	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,043	1,042	1,042			
	一般財源	16,976	13,411	13,411			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
LINE、TwitterなどSNSの登録者数(人)		目標値	20000	20000	20000	20000	20000
		実績	30306	36278	37387	41319	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>情報発信については、令和5年3月17日に設置されたイオンモール内での「NIJHAMA CITY INFORMATION」の活用など、各種広報媒体を用いてより効果的に情報の発信が行えるよう各担当課に分かりやすく、かつ積極的な広報活動を依頼する必要がある。また、現在活用している各種SNSについては、さらなる登録者の増加を図る必要がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>LINEを中心に現状の広報ツールを有効に活用し、より効果的な広報活動を継続して実施していく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>広報ツールの中心として活用するLINEの機能について、市の電子申請手続きの増加に併せて、市公式LINEの基本タブのメニューに電子申請をするためのボタンを追加し、利用者の利便性の向上及び利用登録者の増加を図った。今後も登録者の増加を図るために事業を継続して実施していくことが適当と思われる。</p>							

## 令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	02473_01		
事業名(行目名称)		走る広告塔事業費	細事業名	走る広告塔事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	コミュニケーション型広報の推進	担当課	シティプロモーション推進課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	運行経路沿線住民	数値	—			
	手段(どうやって)	長距離トラックの側面を広告スペースとして活用し、新居浜市のPR写真等(太鼓祭り、別子銅山産業遺産等)をラッピングした車両が全国を往来する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市のPR写真等をラッピングした車両(長距離トラック)が全国各地を往来することで、全国の人の目に留まり、新居浜市をPRできる。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 572千円	
経費		0	572	572			
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0			
	一般財源	0	572	572			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
バス・トラック稼働日数(日) ※(R3まで)バス:2便/日(神戸・大阪方面) トラック:250日/一社あたり (関東、関西、中越、中部、東海、九州方面)		目標値	1980	1250	—	890	890
		実績	1597	894	—		—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや低い	有効性	やや低い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
今年度は、車両4台で実施している。現車の消耗の状況を鑑み、剥離が必要なようであれば適宜支出する必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
今後車両の更新(ラッピング)は実施しないが、トラックを原状回復する必要がある。剥離は適宜支出する必要があるため、現状維持とする。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
運行車両の内、既に対応年数が経過しているものについても、損傷や補修に関する要望等の協議がなかったことからラッピングの張り替えは行わなかった。なお、市外に向けたPRについては、実施方法等(事業内容・事業主体)見直しの時期にきていることもあり、令和5年度については、ラッピングの剥離料のみの予算計上であった。							

## 令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	02642_01		
事業名(行目名称)	人材ネットワーク形成事業費	細事業名	全国「にいほま倶楽部」推進事業				
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	コミュニケーション型広報の推進	担当課	シティプロモーション推進課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全国「にいほま倶楽部」会員		数値	1452		
	手段(どうやって)	会費無料、市政よりは希望者のみに送付し(郵送料別途徴収)、会員全員に年4回程度さまざまな地域情報をまとめて送付。会員特典制度として、会員証を発行し、新居浜市内の協賛事業所での各種優待サービスを実施。また、情報交流会を開催(東京・大阪・松山)。令和4年度からは、学生版全国「にいほま倶楽部」を創設し、就職情報や本市の情報発信等を定期的に行う。また、ふるさとにいほま便で特産品を送付。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	会員数の増大を図り、広い視野からの新居浜のまちづくりへのアドバイス・支援など、「市政の応援団」になっていただく。また、学生会員については、継続した繋がり構築を図りUターンに繋げる。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			3,308	3,308		<ul style="list-style-type: none"> <li>○報償費 100千円</li> <li>○旅費 456千円</li> <li>○需用費 62千円</li> <li>○役員費 533千円</li> <li>○委託料 1,682千円</li> <li>○使用料及び賃借料 475千円</li> </ul>	
財源	県・国支出金		1,459	1,459	0		
	地方債		0	0			
	その他		15	15			
	一般財源		1,834	1,834			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
全国「にいほま倶楽部」会員数		目標値	550	600	-	1400	1400
		実績	530	1452	1315	1172	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
ふるさとにいほま便については、300人対象としているが、現在申込が192人となっており、今まで以上にSNS等での呼びかけが必要である。また、下半期に、11月(松山)1月(大阪・東京)で交流会を実施する予定である。昨年度、学生版全国「にいほま倶楽部」を設立したことから、本年度も学生の参加に重点を置いた交流会の開催を目指す。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
令和4年度に創設した学生版全国「にいほま倶楽部」の会員との継続的な関係構築、また、一般会員においては、にいほまの応援団として様々な支援をいただくため、事業実施は現状維持とする。今後は、関係人口増を目指し、更なる会員の増加とネットワークの強化につなげていく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
昨年度に引き続き、ふるさとにいほま便学生支援事業と連携し、学生版全国「にいほま倶楽部」に加入してもらうことにより、若年層の会員獲得に成功した。また、交流会についても、愛媛交流会だけでなく、大阪・東京でも企業説明会を交流会の前に開催するなど、多くの学生に参画いただける企画を行った。引き続き、ふるさとにいほま便を実施し、さらなる若年層会員獲得を行うとともに、就職情報や若者向けの話題等の定期的な発信、交流の場を設けることで、地元への愛着を深めてもらい、多くの方のUターンに繋げていきたい。							

### 令和5年度事務事業評価表

<b>I 基礎情報</b>			事後評価	2023	01010_01		
事業名(行目名称)		議会放映事業費	細事業名	議会放映事業			
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進			
	基本計画	情報提供メディアの複合的な利活用	担当課	議事課			
<b>II 事務事業の実施概要</b>							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民	数値	114,356			
	手段(どうやって)	予算決算特別委員会をインターネットで録画配信する。決算特別委員会は、開催日の翌日から2月議会招集告示日まで、予算特別委員会は、開催日の翌日から6月定例会招集告示日まで配信する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	予算決算特別委員会をインターネットで録画配信することにより、昼間働いている市民が視聴できる機会を増やして、議会に対する関心を高める。					
<b>III 投入費用</b>							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			9,212	9,212		○需用費 500千円 ○備品購入費 8,712千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他		0	0			
	一般財源		9,212	9,212			
<b>IV 指標</b>							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
カメラ設置数		目標値			3	3	
		実績			3	3	—
<b>V 事中評価</b>							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
予算決算特別委員会放映のための設備導入が完了した。10月25日からの放映開始にあたり広く市民に周知を図っていく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
令和6年度からは議会広報事業費において、本会議放映と合わせ実施する。							
<b>VI 事後評価</b>							
成果	総合評価(令和5年度)		D: 事業の統合・休廃止を検討				
予算決算特別委員会の配信のため、議場への3台のカメラ設置が完了したので事業を終了する。令和5年10月の決算特別委員会、令和6年3月の予算特別委員会から、インターネット配信を開始した。これにより、昼間働いている市民が視聴できる機会を増やし、議会に対する関心を高めることができる。							

## 令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	01012_01			
事業名(行目名称)		議会広報事業費	細事業名	議会広報事業				
総合計画	まちづくり	行財政運営	施策	開かれた市政の推進				
	基本計画	情報提供メディアの複合的な活用	担当課	議事課				
<b>II 事務事業の実施概要</b>								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民		数値	118,103人			
	手段(どうやって)	1 ケーブルテレビにより本会議の生放送と録画放送を実施する。<録画放送>1回目は議会開催日翌日の18時から録画放送する。2回目は議会閉会日の1週間後8時から、3回目は2回目終了翌日20時から放送する。2 インターネットにより本会議の生放送と録画放送を配信する。<録画放送>議会開催日の翌日の18時から、次期定例会の告示日まで配信する。市政だより、市議会だより(議員の一般質問、委員会における審査の内容等)を掲載する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	CATV放送に加えて録画放送及びインターネットによる映像配信を実施することにより、昼間働いている市民が視聴できる機会を増やして、議会に対する関心度を高める。平成26年度より継続して市議会だよりを作成し、議員の一般質問、委員会における審査の内容などを中心に市政だよりに掲載することにより、市民に広く情報提供する。						
<b>III 投入費用</b>								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		3,121	4,311	4,311		○需用費 1,294千円 ○委託料 3,017千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	3,121	4,311	4,311				
<b>IV 指標</b>								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
YouTube視聴数			目標値	5000	5000	2500	5000	5000
			実績	2126	2747	1608	3412	—
<b>V 事中評価</b>								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>本会議の生放送の実施により、傍聴に来ることができない方も、市議会本会議を視聴することができる。また、CATV録画放送の実施により昼間に生中継を見ることができない市民の方も議会放送を視聴することができる。更に、CATV未加入の市民及び市外在住の方についても、インターネット放送の実施により定例会や臨時会を視聴することができ、多くの方に議会の内容を周知することができている。市議会だよりでは、議案の議決結果や議員の一般質問、委員会における審査の内容など、議会活動について市民に広く情報提供することができている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>市民を代表する議決機関として、公正性、透明性を確保し、市民に開かれた議会としていくため、引き続き本会議の中継を継続する。市民の議会活動への認識をより深めていただくために、令和5年度から決算特別委員会及び予算特別委員会のインターネット配信を開始しており、本会議中継と合わせて視聴の呼びかけを行っている。市議会だよりの発行については継続して実施するとともに、市民にとってよりわかりやすく、議会への関心を高められる紙面づくりに努める。</p>								
<b>VI 事後評価</b>								
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>CATVの本会議録画放送及びインターネットでの本会議・予算決算特別委員会映像配信の実施により、議会の傍聴に来ることができない市民が視聴することができ、議会の内容について周知するとともに関心度を高める有効な手段になっている。また、議会だよりを発行することにより、議員の一般質問、委員会における審査の内容などを中心に、市民に広く情報提供することができおり、議会広報の充実が図られるため、今後も継続して事業を実施する。</p>								

令和〇年度 事務事業評価表

I 基礎情報						
事業名(行目名称)			細事業名			
総合計画	フィールド		施策			
	基本計画		担当課			
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)		数値			
	手段(どうやって)					
	目的(どんな状態にしたいのか)					
III 投入費用						
実施年度	令和〇年度 決算額(千円)	令和〇年度(千円)			令和〇年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
		当初予算額	現執行額	決算額		
経費						
財源	県・国支出金		—			
	地方債		—			
	その他		—			
	一般財源		—			
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和〇年度	令和〇年度	令和〇年度中間値	令和〇年度
		目標値			—	
		実績				—
V 事中評価						
評価視点		妥当性		有効性		効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向				
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向				
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和〇年度)					
事中評価	作成担当者		最終評価責任者			
事後評価	作成担当者		最終評価責任者			